

ポスター発表5 / 解剖, オッセオインテグレーション

座長: 嶋田 淳 (明海大学歯学部病態診断治療学講座口腔顎顔面外科学分野1)

2018/09/15 13:30~14:00 会場 大阪国際会議場 12階 特別会議場

[P-1-19] 13:30~14:00

上顎洞底の解剖学的研究 - CBCT画像を用いた計量的形態計測-

Anatomical study of the maxillary sinus floor -Morphologic measurement using CBCT images-

筆頭著者: 今井 昭彦 / IMAI A (関東・甲信越支部 / Kanto-Koshinetsu Branch)

共著者: 渡辺 孝夫 / WATANABE T¹、清水 治彦 / SHIMIZU H²、飯村 彰 / IIMURA A³、浅井 澄人 / ASAI S⁴ (¹神奈川歯科大学大学院口腔科学講座 / 日本歯科先端技術研究所 / Department of Oral Science, Graduate School of Dentistry, Kanagawa Dental University / Japan Institute for Advanced Dentistry, ²関東・甲信越支部 / Kanto-Koshinetsu Branch, ³神奈川歯科大学大学院口腔科学講座 / Department of Oral Science, Graduate School of Dentistry, Kanagawa Dental University, ⁴日本歯科先端技術研究所 / Japan Institute for Advanced Dentistry)

I 目的: 上顎骨頬骨突起下縁で咬筋起始部の内側(Z点)は、パノラマエックス線写真にて、常に上顎洞の後1/3にみられるJ字状のパノラミック無名線最下点とほぼ一致する。今回、われわれは、インプラント患者のCBCT画像上にZ点を設定、これを基点とした上顎洞底を計量的形態計測し、Z点を上限とした上顎洞底の解剖学的構造を調査した。

II 材料および方法: 資料は、某歯科を受診し、学術使用を承諾した患者のCBCT画像 (Pre Vista Uni-3D 8x5, 京セラメディカル社) とし、インプラントシミュレーションソフト (SimPlant Crystal®, Materialize Dental, Belgium) にて分析した。対象患者は男性15名、女性35名の50名、その年齢は31歳から71歳まで、平均年齢は56.0±7.8歳、左右上顎骨を調査対象とした。1) Z点における上顎洞底水平断面の形態および2) Z点に対し、前後の上顎洞底前頭断面の形態を計測した。計測画面はZ点より前方5mm, 10mm および15mm, そしてそれより後方5mm, 10mm, 15mmおよび20mmの前頭断面とした。

III 結果: 1) Z点での上顎洞底水平断面構造: 内径は平均34.9±4.3mm, 内径前方径は平均11.5±2.7mm, 内径後方径は平均23.5±3.0mm, 外側前壁径は平均24.9±4.7mm, 外側後壁径は平均29.1±4.1mmおよび幅径は平均21.4±3.9mmであった。2) Z点での上顎洞底前頭断面構造: Z線から洞底まで14.8±3.5mm, 同鼻腔底まで6.9±3.2mm および同歯槽頂まで20.4±4.1mmであった。水平距離として正中から内壁陥凹部まで12.6±2.7mm, 同内壁豊隆部まで17.9±1.8mmであった。

IV 考察および結論: 上顎洞底に近い部位でインプラント手術を行う場合は、パノラマX線写真やCT画像より得られた上顎洞底の構造の位置を、上顎骨外側にある解剖学的構造を基点に上顎洞底の解剖学的構造を推測することが必要になる。今回の調査からZ点を上限とする上顎洞底の形態はくの字に曲った船底の形をしており、臨床でわれわれが感じる上顎洞底の構造と似ていた。Z点は上顎洞底の最深部、幅径最大部および前後に分ける位置にあり、上顎骨外側より上顎洞底の解剖学的構造を推測する基点として有用であった。(治療はインフォームドコンセントを得て実施した。また、発表についても患者の同意を得た。倫理審査委員会番号17000124承認 承認番号004号)